

文学部同窓会だより

第 33 号

平成 30 年 4 月 1 日
 発行所 立正大学文学部同窓会
 代表者 会長 西岡 勇治
 事務局連絡先
 〒104-0053
 東京都中央区晴海
 3-13-2-3614 左近 俊彦

平成三十年度立正大学文学部同窓会総会、記念講演会の開催情報
 記念講演会は江戸食文化の第一人者が語る「江戸食文化研究の現状と現場」
鰻料理と言えば「鰻の蒲焼き」ですが、なぜ、蒲焼きと呼ぶの？

江戸食文化に詳しい青木正己さんによれば、「江戸時代初期くらいまで、鰻はさばかずに丸のまま串に刺して焼いており、その姿が植物の蒲の穂に似ていることから蒲焼きと呼ばれた」のだそうです。それが徐々に身を二つに開いて焼くようになり、江戸では蒲焼きを一度蒸して脂を抜き、味噌や砂糖などを加えてつけたれを工夫し、現在の蒲焼きが完成したのです。

文学部同窓会では平成三十年五月二十六日（土）午後一時から品川キャンパスにて年次総会および記念講演会を開催します。講演会では「江戸食文化研究の現状と現場」と題して、青木正己さんに江戸時代の料理、菓子、酒などの不思議を紹介していただきます。鰻



【青木正己】立正大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。立正大学文学部助手などを経て、1989年虎屋に入社、虎屋文庫研究主幹として和菓子に関する調査・研究に従事。著書＝「幕末単身赴任下級武士の食日記」「図説和菓子の歴史」など。

の蒲焼きなどの喰い物ばなしをはじめ、NHK時代劇や漫画の考証など食文化研究を伝える現場のお話も満載です。

【開催概要】

開催日＝平成 30 年 5 月 26 日（土）

総会

- ◆開催時間＝午後 1 時～午後 2 時 20 分
- ◆議事＝前年度事業報告・決算報告および会計監査報告、今年度事業計画案・予算案等
- ◆会場＝立正大学品川キャンパス 1 号館 4 階・第 7 会議室

記念講演会

- ◆講演時間＝午後 2 時 30 分～午後 4 時
- ◆講師＝元・虎屋文庫研究主幹 青木直己氏
- ◆演題＝「江戸食文化研究の現状と現場」
- ◆会場＝立正大学品川キャンパス 1 号館 4 階・第 7 会議室

懇親会

- ◆開催時間＝午後 4 時 30 分～午後 5 時 30 分
 - ◆会場＝立正大学品川キャンパス内「教職員食堂」
 - ◆参加費＝2000 円
- ※総会と講演会への参加は無料。

いそぐわい

——文学部同窓会会長・西岡勇治

平成も最後の一年となりました。そんな中、我が立正大学は二千二十二年に大学創立百五十周年を迎える準備を、大学役職員を上げて進めつつあります。さらに今年には同窓会の母体となります立正大学校友会が創設十周年を迎えます。こちらは十一月三日に「ホームカミングデー IN 橘花祭」の開催に合わせて盛大にお祝いする計画が進行中です。文学部同窓会としても今後迎える各種の事業協賛参加に向けて、五月の総会開催や大学同窓会の熊本総会への協賛、恒例の日本文化散策などの企画を進行させています。

ホームカミングデー IN 橘花祭へも協力参加いたします。今年も、教員を目指す学生を対象に、教職を目指すうえでの心構えや注意点、そしてやりがいなどの講演を開催する予定です。先に紹介した校友会創設十周年記念イベントも企画（参加費無料の懇親会など）されていますので、一人でもたくさんの方の参加を願っております。

最後に、長年、立正大学文学部英文科等で教鞭をとられ、文学部同窓会の役員としてもご指導頂いた文学博士・鏡味國彦先生が去る二月十日にご逝去されたことをお知らせいたします。今日までのご支援ご協力に感謝しつつ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成三十年度日本文化散策開催のお知らせ 参加者募集！—— 関東武蔵台地の南端池上台地周辺を散策しよう



毎年恒例となっている文学部同窓会日本文化散策。今年は東京・大田区にある池上台地周辺を探访することが決まりました。多摩川、大行寺、本門寺、永寿院、古墳、松濤園などの東京南部の歴史的な位置付けや、鎌倉から明治にかけての記念碑の現場である池上台地周辺を散策します。毎年参加の方はもちろん、はじめての参加も大歓迎です。昨年は同級生の四人組で参加された方もいらつしやいました。ぜひ、お友だちをお誘いのうえ、一緒にぶらり、ぶらりと散策を楽しみましょう。

■文学部同窓会 平成三十年度日本文化散策
■テーマ 関東武蔵台地の南端池上台地周辺を散策しよう
■開催日時 平成30年9月8日(土)

プレイバック—— 築地歴史探訪 平成二十九年度日本文化散策詳報

江戸から明治にかけての文化を巡った日本文化散策。前号では速報をお届けしましたが、今回は詳細版です。報告は文学部同窓会副会長でもある五島正夫さんです。

◎

10時～14時30分(予定)。雨天決行。

■集合場所 東急池上線池上駅(改札の外)。出口は一つです。

■参加費 昼食代として2000円。

■ルート 池上駅出発 本門寺総門 本行寺 宝塔 紀州徳川家のお墓 永寿院の古墳 と万両塚 昼食 松濤園 江戸・明治時代の有名人のお墓見学。散策終了後は自由解散となります。尚、昼食は13時ごろ予定しています。朝食をしっかりと取りたいのでご参加ください。

■参加申込 散策事務局、西岡勇治まで。

〒144-0055

東京都大田区仲六郷2-1-2

電話 03-37733152 41

8月30日(水)までにお申し込みください。参加は文学部以外の方でも、ご家族の同伴も歓迎いたします。

※立正大学同窓会ホームページなどでも情報が公開されますのでチェックしてみてください。

去る平成二十九年九月九日に行われた日本文化散策は、探訪地は市場移転問題で話題になっていた「魚河岸の町」築地周辺を歩きまわった。築地市場は当初の予定では九月の探訪当日には、豊洲新市場に移転しているはずでしたが、諸事情から延期され、結果的に同窓一行は旧来の築地を訪れることが出来ました。速報版でもお伝えしましたが、築地の魚

河岸は仮開設が大正十二年(一九二三)、正式開設が昭和十年(一九三五)でした。それ以前の築地は、本願寺と武家屋敷の町、そしてもうひとつの顔が、明治初年に出来た居留地の街でした。「築地」という名前は、明暦三年(一六五七)の「明暦の大火」後、八丁堀の低湿地を埋め立てて土地を築いたことから「築地」という地名となりました。

集合場所は築地場外市場から晴海通りを一本隔てたところにある築地本願寺境内。鉄筋コンクリートや花崗岩を用いた古代インド様式の丸みを帯びた本堂の屋根のモチーフは、菩提樹の葉であり、その中央には仏教のシンボルである蓮の花が描かれています。本堂は、パイプオルガン、ステンドグラス、イソ式と他の寺と違った独特の雰囲気でした。

西岡勇治文学部同窓会会長の挨拶の後に歴史散策は開始されました。

まずは赤穂浪士の一人で、本懐を遂げて吉良邸から泉岳寺へ向かう途中、手槍に五十両を結び、自分の供養料として本願寺の塀の外から投げ込んだと伝えられている間新六供養塔等を見学して、次の探訪地に向かいます。

築地本願寺の北東に位置した居留地は商館の多い横浜や神戸と異なり、外国公使館や領事館をはじめ、海外からの宣教師・医師・教師などの知識人が居住し教会や学校などを数多く開いて教育を行ったため、日本の近代化に大きな影響を与えました。築地は東京の「西洋の学問の発祥の地」と云えるでしょう。

これも前号お伝えしましたが、近くにある「蘭学事始の碑」の場所は、豊前中津藩奥平家の中屋敷でした。中津藩の藩医だった前野良沢(一七二三—一八〇三)は、この場所

で、有名な『解体新書』の底本となったオランダの解剖書『ターヘル・アナトミヤ』の翻訳を杉田玄白（一七三三—一八一七）らとともに行いました。

聖路加国際大学敷地内には、播磨国赤穂藩主、浅野内匠頭屋敷跡碑と芥川龍之介（一八九二—一九二七）誕生の地碑が並びます。碑には『……芥川龍之介の父親はこの付近で「耕牧舎」という乳牛の牧場を経営していた……』と記されていました。築地居留地という特殊性から新鮮な牛乳の需要があったのでしよう。芥川龍之介の生い立ちを読んだとき、この地に牧場があったことに驚きました。が、今回の探訪で疑問が氷解しました。ちなみに明治五年（一八七二）の新橋・横浜間の日本で初めての鉄道開通は、築地居留地と横浜居留地を結ぶものでした。

聖路加国際大学を抜けると明石小学校があり、敷地の一面に地居留地で使用されたコリント風様式のカス街灯柱があります。ガス灯の明るさは当時の人々を驚かせたでしょう。

次に訪問したのはカトリック築地教会です。現在の教会は関東大震災によって明治十一年（一八七八）創建の旧聖堂が焼失したため、昭和二年（一九二七）、ギリシア神殿パルテノン形式の聖堂が建てられました。この聖堂は平成十一年（一九九九）四月、東京都景観条例により歴史的建造物に選定され、さらに平成十三（二〇〇一）三月には中央区からも文化財に選定されています。

日本で初めて小豆餡を詰めた饅頭を作った塩瀬総本家に寄り、饅頭発祥の店で饅頭をお土産に買いました。隅田川右岸を歩き、聖路加ガーデンの二本の塔を背景に記念撮影を撮

影したあとはあかつき公園へ。ここではフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（一七九六—一八六六）の胸像に出迎えられました。シーボルトは、オランダの商館医師として文政六年（二八二二）七月、長崎に到着し、鳴瀬に診療所を兼ねた塾を開き活躍しました。文政九年（二八二六）、商館長と共に江戸へ向かい、日本橋の長崎屋に止宿し、江戸の蘭学者に面接指導し大きな影響を与えましたが、文政十一年（一八二八）九月、シーボルト事件が発生し、翌年、日本から追放されています。後に安政六年（二八五九）、幕府顧問として再来日しましたが、まもなく帰国しミュンヘンで没しました。彼の江戸における指導は、江戸蘭学発展のために貢献するところが大でした。この地が江戸蘭学発祥の地であり、かつ彼が長崎でもうけた娘いねが築地に産院を開業したこと、ここに彼の胸像を建てたと記してありました。



隅田川の左岸から見た勝鬨橋

電信創業記念碑と月島の渡し跡碑を見て次の探訪地に向かいました。勝鬨橋記念碑のところどころでかちどき橋の資料館見学と勝鬨橋を渡るコースに分かれての行動となりました。勝鬨橋を渡り隅田川左岸から上流に勝鬨橋を見る最高のロケーションに立った同窓もいま

した。

かちどき橋の資料館は勝鬨橋の構造や当時のモーターなどが展示されています。当時、東京港修築計画に基づいて架けられた勝鬨橋は、万国博覧会へのメインゲートとしても利用するために、最先端技術の粋を集めて建造されました。現在の晴海で開催予定だった「紀元2600年記念日本万国博覧会」自体は戦争の激化など諸般の理由により中止となりましたが、勝鬨橋は昭和十五年（一九四〇）六月十四日に完成しました。中央が開閉する勝鬨橋は、完成当時は跳開橋として東洋一の規模を誇っていましたが、隅田川を航行する船の減少、交通量の増加などによって、昭和四十五年（一九七〇）十一月二十九日の開閉

TOPICS

今年度も助成が決定！

大学同窓会・熊本総会翌日のバスツアーへの参加費を支援します

来る平成三十年八月十八日（土）に大学同窓会の定期総会および懇親会が熊本県で開催され、翌十七日（日）には九州ブロック主催の「熊本城と白川水源等散策バスツアー」が計画されています。このバスツアーに参加する文学部同窓会会員に参加費の一部を助成します。同窓会総会参加申込書に文学部所属であること、バスツアーに参加であることを明記ください。文学部同窓会から当日、参加費の一部として二千元を支援させていただきます。多くの方の参加をお待ち申し上げます。

なお、立正大学同窓会・定期総会およびバスツアーの詳細は大学同窓会ホームページや大学同窓会からの案内をご覧ください。

NEWS

文学部『同窓会だより』電子版のお知らせ

『文学部同窓会だより』をデジタル化。PDF版の会報紙を誰にでも読んでいただけるようになりました。また印刷された会報紙が手元になくても、30号からバックナンバーとして保存されているので、いつでも確認していただくことができます。

URL

<http://alumni.rissho.jp/alumnus/act/>

立正大学ホームページ→立正大学同窓会
↓支部・学部同窓会活動と進んでいた
くと、「文学部同窓会だより」のページに
たどり着けます。

またGoogleなどの検索サイトで「立正大学文学部同窓会だより」と検索しても該当ページへ飛ぶことができます。

立正大学文学部同窓会だより



を最後に、現在では開かずの橋となっています。東京都中央卸売市場築地市場は、正午を過ぎていたにもかかわらずトラック等で混んでいました。学生時代にここでアルバイトをしたと懐かしんでいる同窓もいました。列車のプラットホーム跡を見ながら魚の匂いのする市場を後にして、波除稲荷神社へ。この神社は「災難を除き、波を乗り切る」波除稲荷様として、災難除・厄除・商売繁盛・工事安全等の御神徳に厚いことで知られています。昼の約束の時間が迫っているので、外国人で賑わう場外市場の中の波除通りを、店先に並ぶ品物と値段を見比べ、お昼時の美味しい香りに鼻を奪われながら新大橋通りに向かい

ます。新大橋通りを渡ると新喜楽という老舗の料亭があります。店主は代々の女将が務め、密約が漏れない絶対信用から、政財界人や文化人の利用者も多いことで知られています。芥川賞・直木賞の選考場所としても使われ、芥川賞は一階、直木賞は二階の座敷を利用しています。

江戸時代の築地から明治維新・大正・昭和そして外国人観光客の溢れる平成の築地を歩いた総勢二十五人の同窓は、マグロの初競りで有名な「すしざんまい」で築地の寿司を堪能しました。遠くは山形県からの参加者や和服姿の参加者を交えて自己紹介をしながら懇親を深め、再会を約し散策は終了しました。

年次協賛金ご協力のお願い

文学部同窓会の活動は、皆様からの年次協賛金が大きな支えです。年次協賛金は、主に文学部の各学科関係学会活動への助成（毎年一学科五万円）を行い、現役の教員や学生の教育研究活動の一助として役立てていただいております。また、会報の発行、講演会の開催や日本文化散策行事などの事業に支出しています。下記の方法で協力していただきますようお願い申し上げます。

< 年次協賛金の払込方法 >

ご協力いただける方は、郵便局に備え付けの払込取扱票をご使用になり下記の口座にお払い込みいただきますようお願い申し上げます。

【口座番号】00160 - 5 - 177928

【加入者名】立正大学文学部同窓会

【金額】一口 1,000 円

協賛金は銀行振込もできます。銀行振込の場合は、下記の口座にお振込いただきますようお願いいたします。

【銀行名】ゆうちょ銀行 【店番】019

【店名(カナ)】〇一九店(ゼロイチキキウ店)

【預金種目】当座 【口座番号】0177928

【受取人名(カナ氏名)】

立正大学文学部同窓会

(リツシヨウダイガクブンガクブドウソウカイ)

【金額】一口 1,000 円

誠に恐縮ですが、払込料金や振込料はご負担いただきますようお願いいたします。



◆情報&メッセージの募集◆

『文学部同窓会だより』では同窓生の皆様からの情報やメッセージを頂戴できる窓口を設けています。書籍の出版情報やイベントなどの告知や報告など同窓生の活躍を是非紹介させてください。自薦他薦は問いません。またご要望やご意見、会報紙の感想などお寄せ下さい。お待ちしております。

【ハガキや手紙の送付先】

〒104-0053

東京都中央区晴海3-13-12-3614

立正大学文学部同窓会『同窓会だより』宛て